東北支部通信　No.25　2025 年 9 月 7 日号

東北支部 AB 講座盛岡講座が開催されました

去る 7 月 13 日、いわて県民情報交流センター・アイーナにて、東北支部 AB 講座が開催されました。その模様をお伝えします。

＜特別講演１、２＞

演題：「耳鳴・難聴と周辺疾患について』　講師：埼玉医科大学医学部東洋医学科客員教授　山口智先生

埼玉医科大学の山口先生からは、　第１部と第２部に分けて耳鳴・難聴と周辺疾患の座学と実技講演が行われました。

座学の講義では耳鳴・難聴についての原因、判定基準、治療方法や、埼玉医科大学や関連施設で実際に行われている医療連携の紹介、医師から見た鍼灸に対する意識調査についての報告がありました。突発性難聴と末梢性顔面神経麻痺の項目で、発症初期の治療が予後に影響すること分かっており、早期の投薬が望まれると話されていました。診療ガイドラインなどをもとに、現在の標準治療を理解したうえで適切な受療機会を与える（奪わない）ことも我々の重要な役割だと感じました。

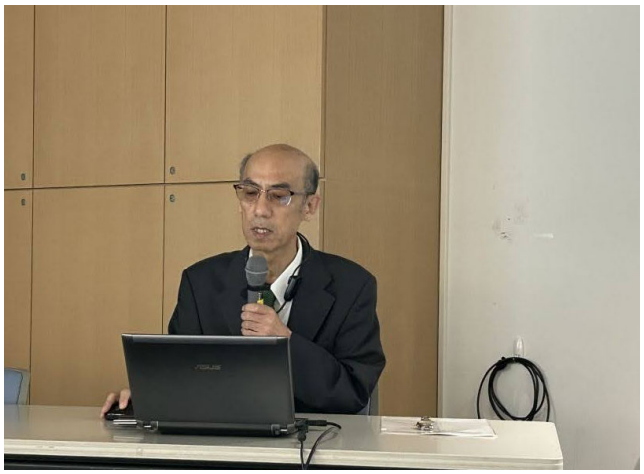
実技では音叉や指こすりによる所見の取り方、
各部位への刺鍼方法や注意点をとても細かくご講演いただきました。「診療」「研究」「教育」を最前線で実践されている山口先生の講演に引き込まれ、あっという間の２講演でした。

最後に、「今後は専門医との連携により、満足度の高い医療サービスをし、国民の健康保持・増進につとめることが必要」とのお言葉に大変感銘を受けました。今後も他のテーマについて、また山口先生をお呼び出来たらと感じました。（座長：三戸敦雄）

＜特別講演３＞

演題：「鍼灸治療を含めたハイブリッド型医療の展開～急性期疾患を中心に～」　講師：秋田大学大学院救急集中治療医学講座教授 中永士師明先生

中永先生からは、秋田大学救急救命センターや集中治療室での実際の症例を中心にご講演をいただきました。



救急外来での多岐にわたる患者さんを良くするためには、ひとつの医療体系にこだわらず西洋医学や東洋医学の長所を柔軟に活かすことが肝要であると述べられ、その中でも尿路結石症、めまい、嘔気・嘔吐、呼吸不全、急性腰痛、吃逆、破傷風による筋痙攣に鍼灸治療を応用した症例を提示されました。

鍼灸を併用することで症状が改善され早期に退院ができている症例を拝見し、急性期病院での鍼灸治療の可能性を感じることができました。

中永先生より「鍼灸師も ICU に配置を」とのお言葉は大変心強く、我々鍼灸師はさらに医療現場で活躍できるように日々研鑽を積み、多職種との関わりを持つことが重要であると感じました。（座長：佐藤駿）

次回は 11 月 9 日（日）に東北大学病院にて、第 26 回東北支部学術集会を開催します。日本東洋医学会宮城県部会様と共催で、それぞれの会場で自由に参加できます。また共同シンポジウムと（株）ツムラ様のランチョンセミナーも開催し多彩な学術集会となりますので、ぜひご参加ください。（支部長・三瓶）

2025年９月８日

東北支部会員各位

今後の研修などの案内はメールになります。

令和８年度より、東北支部からの研修などの案内は基本的に郵送を廃止し、電子メールになります。通常電子メールをお使いにならない会員の方へは、従来通り印刷物の郵送を行うことも可能です。郵送を希望の会員は下記、東北支部事務局まで『これまで通り郵送で案内が欲しい』とお知らせください。

お問合せ・連絡先：東北支部事務局（担当　益子）
電話 050－3690－1128 E-mail：k_mashi_ko-k@yahoo.co.jp
〒963-8071　福島県郡山市富久山町久保田字石堂 68-16
鍼灸サロン libera -リベラ- 内